

NPO法人ソフィアキッズクリエイト

2026 年 7 月 20 日(月) 9:00~12:00

令和 8 年度

リスクマネジメント 研修会

「豊かな体験」と「安全確保」の両立に向けて

～「リスク発見」から「安全管理マニュアル」策定へ～



プラムネット(株) 子ども安全共育事業部

統括リーダー **渡辺 直史**



自己紹介

渡辺 直史（ウィル）
わたなべ なおふみ



- 冒険教育インストラクター
（公財）日本アウトワード・バウンド協会（OBJ）理事
- 元 児童養護施設 職員
- プラムネット株式会社
子ども安全共育事業部

体験活動リーダーズアカデミー 主宰
元 日本子ども安全学会 理事
子ども安全管理士協会 YOKOHAMA 代表
EFR救急法 国際資格インストラクター
防災士、個人情報保護士



1

放課後児童クラブ運営指針 第6章 2(2)

- 事故やケガの防止に向けた対策や発生時の対応に関するマニュアルを作成し、マニュアルに沿った訓練又は研修を行い放課後児童支援員等の間で共有する。

2



体験活動リーダーズ アカデミー powered by FIEDAY.net
ACTIVITY LEADERS ACADEMY

主な研修内容

- 1, 前年度（3月）研修の復習
- 2, リスクマネジメントの基本手順と安全管理マニュアル作成 プロセス
- 3, マニュアルの運用と安全計画

3

- 1, 前年度（3月）研修の復習

4



指導者の注意義務とは

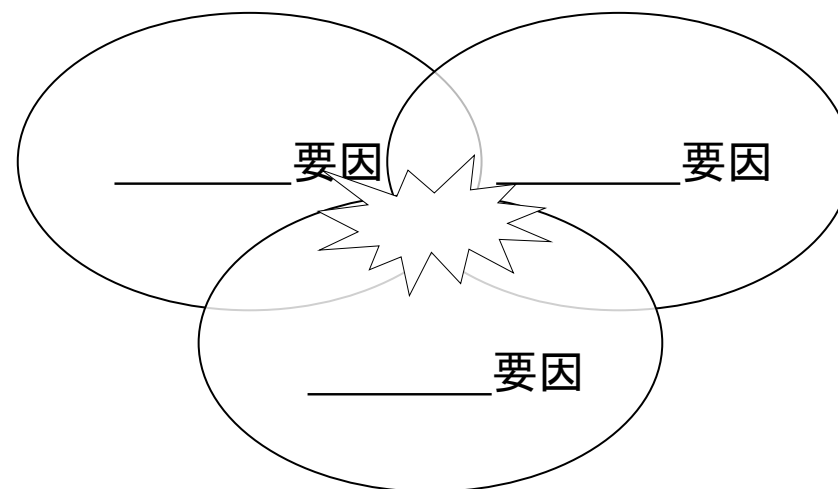
_____する義務
(結果予見義務)

_____する義務
(結果回避義務)

5

発見

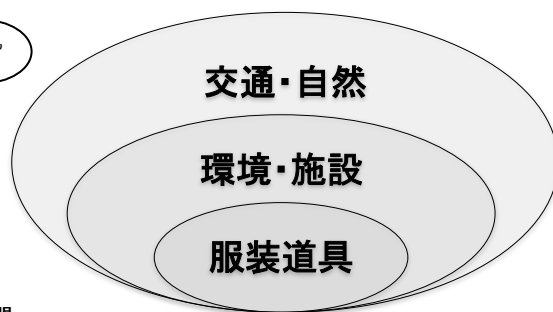
3つの視点からリスク要因を探す



6

発見

_____要因のリスクとは



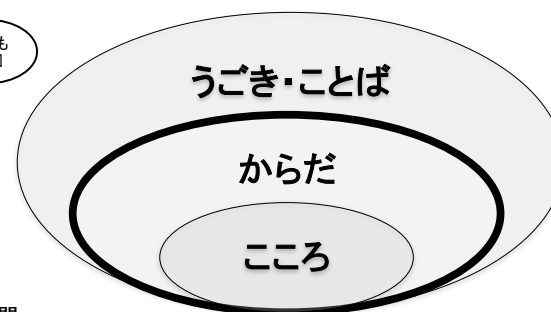
メモ欄

服装・道具
・ヒモ,毛布
・玩具,食物
・硬さ,鋭利
環境・施設
・高さ,硬さ
・隙間,死角
・重さ,不安定
交通・自然
・車,自転車
・天候,寒暖
・風,雷,水
・季節,時間
・危険生物

7

発見

_____要因リスクとは



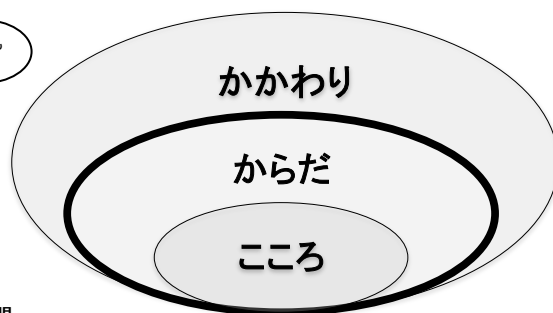
メモ欄

こころ
・性格,感情
・知識,経験
・発達,育ち
・関係性
からだ
・体格,視野
・嚙下,眠気
・体調,疲れ
・アレルギー,薬
うごき・ことば
・探索行動
・急な動き
・言葉が未熟

8

発見

要因のリスクとは



メモ欄

こころ
 ・知識, 経験
 ・感情, 視点
 ・思い込み
 ・子ども観
 からだ
 ・認知, 体力
 ・体調, 疲労
 ・衰え, 服薬
 かかわり
 ・目を離す
 ・急な声かけ
 ・確認不足
 ・マルチタスク

9

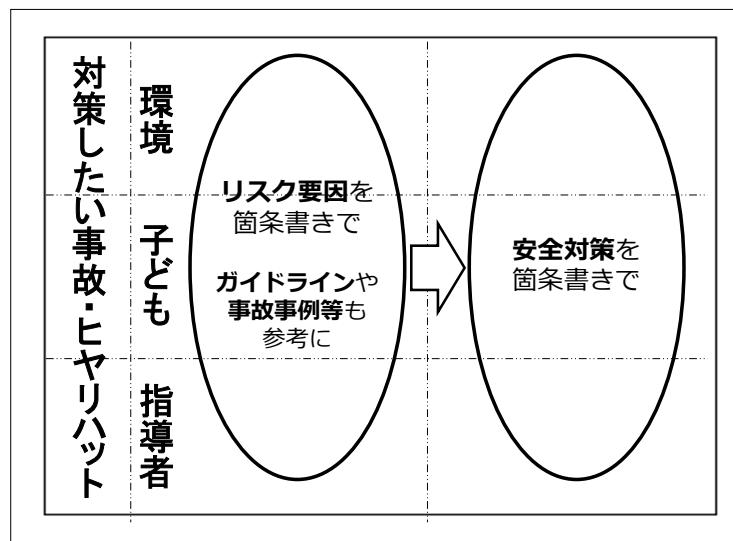
WS

リスク要因から安全対策へ

3つの視点から
 「熱中症対策」を考える

10

リスク要因と安全対策(書式例)



11

「熱中症」のリスク要因(記入例)

熱中症(熱射病)のリスク要因	環境	・気温・湿度の高さ ・直射日光(輻射熱) ・熱中症指数の高さ(WBGT値) ・長時間の活動	⇨ 日陰を選ぶ(つくる) ⇨ 熱中症指数の管理(中止の判断基準) ⇨ 活動時間の調整
	子ども	・体温調整が未熟 ・水分・ミネラル不足 ・(激しい)運動 ・暑さに慣れていない	⇨ 水分・塩分の補給 ⇨ 運動負荷の調整 ⇨ 暑熱順化(家庭との連携)
	指導者	・初期症状の見逃し ・指導者が暑さに慣れていない	⇨ 熱中症 重症度と応急処置の理解 ⇨ 指導者の暑熱順化

12

熱中症の重症度とその対応

- I → 脳の酸欠によるめまい、ふらつき（熱失神）
I → 塩分喪失による筋肉の痛み、つり（熱痙攣）
II → 脱水による倦怠感・頭痛・嘔吐（熱疲労）
III → 意識障害・痙攣・運動障害など（熱射病）

I 応急処置 II 病院受診 III 救急搬送

応急処置

できるだけ冷所に移動し、安静に
衣服をゆるめ、水分、塩分補給、体を冷やす

13

2, リスクマネジメントの基本手順と 安全管理マニュアル作成 プロセス

15

活動名: 外遊び 対象: 小学1～3年生〇名 期間: 通年 事故対策: 転倒・転落・首

1, 事前準備・チェックリスト

主に
「_____要因」の
安全対策から

2, 体調管理・安全指導

主に
「_____要因」の
安全対策から

3, 役割分担・手順

主に
「_____要因」の
安全対策から

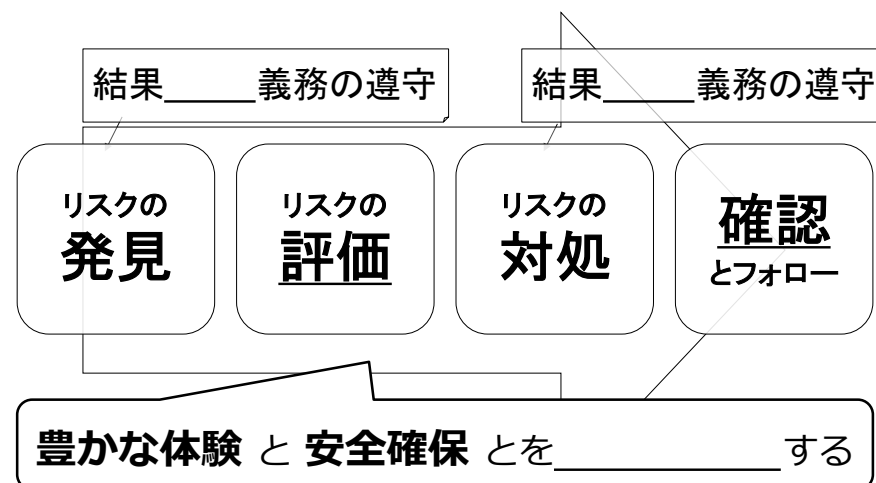
4, 活動場所・人員配置

「指導者要因」の
役割分担を
図で表現

14



リスクマネジメントの基本手順



16



リスクマネジメントの基本手順と 安全管理マニュアル作成 プロセス

リスクの
発見

リスクの
評価

リスクの
対処

確認
とフォロー

★ リスク
ヒヤリハット収集

②重症度・頻度検討

④リスク要因から
安全対策の検討

⑤マニュアル運用
安全計画へ



①損害(事故)想定 ③優先度の見極め

・体験の価値 検討
・マニュアル作成

17

WS

リスク発見

① 損害（事故）想定

具体的に、どんな事故・ケガが
起こりそうか？

18

WS

リスク評価

② 「重症度」と「頻度」とは

19

「重症度」と「頻度」とは

■ 重症度

★ ★ ★ 救急搬送

★ ★ 病院受診

★ スタッフ

■ 頻度

★ ★ ★ 毎日～毎週

★ ★ 毎月～3ヶ月

★ 半年～1年

20

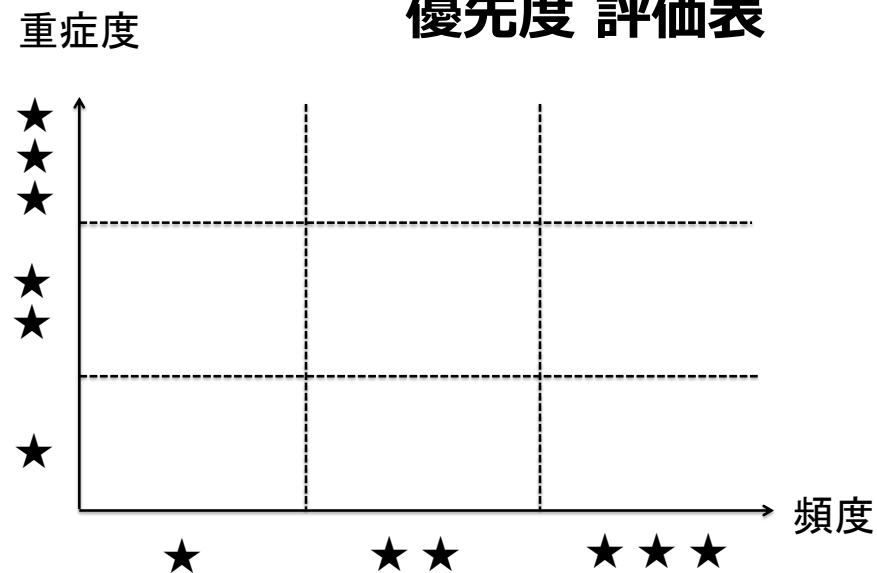
WS

リスク評価

③「優先度」の見極め

21

優先度 評価表



22

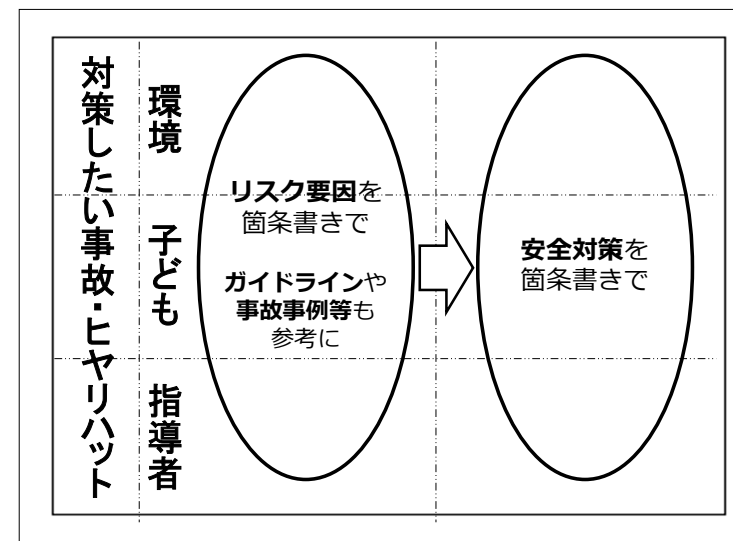
WS

リスク対処

④リスク要因から 安全対策の検討

23

リスク要因と安全対策(書式例)



24

対処 リスク対処 2つの方向性

リスクを_____する

リスクを_____する

25

対処 水遊びの場面で…

リスクを_____

水
(溺れ)

水遊びを
_____する

水遊びの価値

26

対処 水遊びの場面で…

リスクを_____

ライフ
ジャケット

(_____)

水
(溺れ)

で対策

安全教育

(_____)

監視体制

(_____)

27

「熱中症」のリスク要因(記入例)

熱中症(熱射病)のリスク要因	環境	・気温・湿度の高さ ・直射日光(輻射熱) ⇒ △野外に出ない ○日陰を選ぶ(つくる)
	子ども	・体温調整が未熟 ・水分・ミネラル不足 ⇒ △汗をかかせない ○水分・塩分の補給
	指導者	できるだけ 体験の機会 を 保証 できるような 対策を!

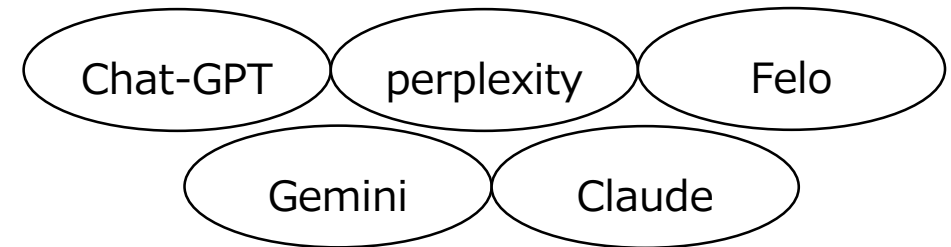
28

環境

子ども

指導者

リスク要因と対策 洗い出しへの 生成AI 活用



- ・最初は自分で、自分たちで、現場で、洗い出す
- ・個人情報や機密情報を入力しない
- ・ハルシネーション(間違い)を起こすことがある
- ・AIは、生成した内容に責任を持たない

30

活動名: 外遊び 対象: 小学1～3年生〇名 期間: 通年 事故対策: 岩からの転落

1,事前準備・チェックリスト

主に
「 _____ 要因」の
安全対策から

2,体調管理・安全指導

主に
「 _____ 要因」の
安全対策から

3,役割分担・手順

主に
「 _____ 要因」の
安全対策から

4,活動場所・人員配置

「指導者要因」の
役割分担を
図で表現

31

No. _____

活動名: 対象: 年生 名 期間: 事故対策:

1,事前準備・チェックリスト

2,体調管理・安全指導

活動の
ねらい:

3,役割分担・手順

4,活動場所・人員配置

32

確認・フォロー

⑤ マニュアル運用から 安全計画へ



より広く・深く 学びたい方へ

- 子どもの安全について、より広く

事故予防/小児救急法/
危険生物対策/子どもの防災 他



- ## ■ 子どもの安全の最新情報など

「体験活動リーダースアカデミー」
LINE 公式アカウント



事故予防 安全計画

活動名 (場面)	マニュアル No. 事故名	マニュアルの適用月 ※月初に該当マニュアルを読み合わせ											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
自由遊び (ミニパーク)	1-1 岩 転落	←											
	1-2 蚊 刺傷	←											
裏山活動	2-1 交通事故	←											
	2-2 落雷	←											



お問い合わせ

プラムネット株式会社 子ども安全共育事業部
体験活動リーダーズアカデミー

〒221-0844
神奈川県横浜市神奈川区沢渡1-2
Jプロ高島台 サウスビル 4F

TEL : 045-312-6052
FAX : 045-312-6077

academy-office@plumnet.jp



ヒヤリハット・事故・気づいたことまとめ

2026年4月～6月 ソフィアキッズフオレスト		ヒヤリハット・事故・気づいたこと		現場を見ながら、具体的に		救急搬送 ★★★★ ★★★★ ★★★★	毎日～毎週 ★★★ ★★★ ★★★	毎月～3ヶ月 ★★★ ★★★ ★★★	6ヶ月～年 ★★★ ★★★ ★★★	優先度 優先度3以上は 直ちに対策を 検討する
場面		ヒヤリハット・事故・気づいたこと								
送迎	シートベルトを複数で使用する際の不安定さ、行儀の悪さ									
	秋葉お迎え組の送亡やくれくんぼ…人数が多いので散り散りになられたまま道路に出られたり、行方をくまらせられると安否を確認できなくて怖い									
	リヒトくんが、車に乗る間に傘を握り回して、他の児童の顔に当たりそうになったため、このあとどうなるかの見通しを考えるように促した。									
おやつ	車内で立ち上がる、シートベルトを外す									
	車内での会話を取られてのバック事故									
	特になし…がしずめすが、おやつ持ち込み組の在庫管理（壁場に向けて衛生面）や保護者へのお知らせに時間を取っている、気に配っていると感じています									
室内活動	おやつ準備中に話しかけられて、子どもが持ってきたお菓子が他のお菓子と混在しようになってしまった。									
	カッター刃、替刃が欲しい。切れないカッターは、逆に怪我のリスクが大きくなる。									
	けんぞうくんが、エンビツをくわえたまま歩いていたので、転倒する可能性、他児に刺さる可能性を伝えた。									
裏山での活動	ハルコニーに勝手に出てしまふ→先生が見れてない状況									
	裏山ウッドデッキ、スロープにあるロープの取り替え									
	裏山ウッドデッキのスロープで手にとげが刺さった									
自由遊び	裏山のロープに足を引っかけ、頭をぶつけた。									
	木製、竹製の階段部分足元が不安定。手摺も脆くなっている。									
	ジップラインのメインロープの緩み、ゴール部分の安全対策									
英語	室内から出るタイミングで走って出ていく場面がある→自転車との接触事故									
	裏のお寺の園作業から戻るタイミング→自由遊する際に遊びが雑しくて公園に先に行ってしまう子がいる									
	児童が廊下や英語教室で滑んでいる際、先生の数が足りないと事故が起きる前後の目配りができないのではという危機があります（例：まさゆまくんとお友達との衝突？事故）									
施設・設備	採点等で目が届いてません。（先生が見ていないときがある）									
	室内の階段で足を滑らせた									
	ウッドデッキのぐらぐらしている机・椅子の上に乗って遊んでいた。									
英語	岩から滑り落ちた（ミニパーク？）									
	1年生、ビーズを口に入れて見せてきた。									
	友人に押されて数段の階段を落ちる。階段におしりを打ち付け打身。									
英語	子どもの悪ふざけ(遊び中) 押し倒しや乗ってしまう。									
	机の下にもぐる									
	教室に入れ替え時、口をぶつけて内出血。									
英語	物理的に難しいとは思いつつ、ロッカーと机との距離をもう少し広げたい。子どもが着席状態で、ロッカーとの間を歩行できる幅。									
	キッチン部分の雑然とした状況。									
	ウッドデッキに出るサッシの施錠部分の不具合。									
英語	階段収納で扉かが閉めようとしたときにほかの子枠が取り出したいものを取っつけて急に手を滑らせてビックリした時があります。事故までには至りませんが、閉めるときは周りに「閉めるよ」と声をかけるようにしたいと思います。									
	玄関の階段収納（靴入れ）の開け閉めがしづらく、手をさきみそうときがある									
	PCを使うときにコードに足をひっかけそうになっている									
英語	掃除機が倒れてきた									
	施設内の階段 キットウォークの木材の角が尖っている 非常階段が鍵がかかっているところ									
	教室内に置かれたの生徒が発見した									
英語	ドア付ロッカーの閉め忘れで頭をぶつける事例がありました。手が空かず（歩行困難なところもあり）プロックを自身で取ってと頼んだところ、閉め忘れていて、それをちゃんと見届けていませんでした。									
	そもそも、備品を置く位置が不明瞭である									

環境

子ども

指導者

活動名: 対象: 年生 名 期間: 事故対策:

1 ,事前準備・チェックリスト

2 ,体調管理・安全指導

3 ,役割分担・手順

4 ,活動場所・人員配置

岩からの転落 リスク要因洗い出し AI： perplexity

プロンプト

高さ1mほどの、大きな岩の上から子ども（小学生）が滑り落ちる事故について、リスク要因を「環境」「子ども」「指導者」の3つに分けて洗い出してください。「環境」には、子供が身につけている服装やてに持っているもの、触れているものを含みます。また岩にはクライミングのようなホールドが数十センチ間隔でたくさん固定されています。天候や気温等の要因も環境要因に含めてください。「子ども」には、子どもの元々の性格や、知識経験、人間関係、体調、動きなどが含まれます。「指導者」も、知識経験、子どもや他の指導者との関係、役割分担や立ち位置、体調や疲労度がこれに含まれます。

生成

以下は、**高さ1mほどの岩から小学生が滑り落ちる事故**を想定した、リスク要因の洗い出しです。子どもの転落事故では、服装や持ち物、天候、見守りの不十分さ、子どもの衝動的行動が重なり、低い高さでも頭部受傷や骨折が起きます。[fukunosangaku.moo]

環境

岩の形状そのものが、足を滑らせやすい、足場が不安定、段差や凹凸でつまづきやすい。高さ1mでも落下エネルギーは大きく、転落後に頭部を打ちやすい。[kasen.or]

クライミング用ホールドが数十センチ間隔で多数あることで、子どもが「登れる場所」と認識しやすく、上へ進む行動を誘発しやすい。ホールドの一部が岩角・突起物として引っかけりの原因にもなり得る。[fukunosangaku.moo]

岩の表面状態が滑りやすい要素を含む場合、危険が増す。具体的には、濡れ、コケ、泥、砂利、浮き石、脆い岩面などがある

と滑落しやすい。[fukunosangaku.moo]

天候要因として、雨で濡れている、霧で見通しが悪い、強風で姿勢が乱れる、気温が高くて疲れやすい、低温で筋緊張や判断力が落ちる、といった条件があると危険が増す。[kasen.or]

足元が見えにくい時間帯や陰影が強い場所では、段差や落差の認識が甘くなりやすい。山岳事故では「滑る」「バランスが崩れる」が主要な誘因として多く、現場条件と動作が重なりやすい。[fukunosangaku.moo]

子どもが身につけている服装に、フード、長いひも、首まわりの紐、ダボついた裾、滑りやすい靴、脱げやすい靴、リュックの肩ひもなどがあると、引っかけりや動作制限の要因になる。持ち物では水筒、カメラ、スマホ、棒、傘、虫取り網などがバランスを崩すきっかけになり得る。[kasen.or]

手に何かを持っている、岩に触れている、写真撮影や採取に気を取られている場合は、両手がふさがり姿勢制御が難しくなる。[kasen.or]

子ども

「自分ならできる」と考えやすい、挑戦欲求が強い、競争心が強い、注意より興味が先に立つ性格は、危険な高さでも登ってしまう要因になる。[mlit.go]

友達に見られている、負けたくない、先に行きたい、上の子に追いつきたいといった人間関係の影響で、無理な行動をとりやすい。[fukunosangaku.moo]

岩遊びや段差のある場所での経験が少ない、クライミング的な動きに慣れていない、危険認知が未熟、足場確認や三点支持の知識が不十分だと転落しやすい。[mlit.go]

疲労、空腹、喉の渇き、暑さ寒さ、寝不足、体調不良があると、集中力とバランス能力が落ちる。山岳事故でも疲労は独立した事故要因として現れている。[fukunosangaku.moo]

あわてる、ふざける、走る、振り向き、後ろ向きに降りる、足元を見ない、といった動きは典型的な危険行動である。

[kasen.or]

身体発達の差、筋力不足、バランス能力の未熟さ、手足の長さや体格のアンバランスは、登る・下りる動作で不安定さを増やす。[kasen.or]

その場の興奮や高揚で「危ない」と分かっても止まれないことがあり、危険予知より行動が先に出る。[mlit.go]

既に別の場所で叱責を受けている、仲間関係がぎくしゃくしている、焦りや不満がある場合も注意力低下につながる。

[fukunosangaku.moo]

指導者

岩場の危険性を十分に見積もれていない、クライミング要素を遊びとして扱いすぎ、1m程度だから大丈夫と考える、などの認識不足は重大な要因になる。[mlit.go]

子どもの人数に対して見守りが不足している、視線が届かない、死角がある、役割分担が曖昧、立ち位置が悪いと、滑落の瞬間に止められない。[fukunosangaku.moo]

子どもや他の指導者との関係が不安定だと、指示が通らない、注意が受け入れられない、危険行動を止めにくい。

[fukunosangaku.moo]

「少しだけなら」「この高さなら平気」といった判断の甘さ、事前の危険予知不足、撤退基準の不明確さは、事故を招きやすい。[mlit.go]

体調不良、疲労、暑熱、睡眠不足、注意力低下があると、状況把握と声かけの質が落ちる。山岳事故ではリーダー自身の安全性も問題として扱われている。[fukunosangaku.moo]

役割分担が曖昧で、誰が先頭・末尾・危険箇所の監視を担うか決まっていないと、子どもの動きに即応できない。

[fukunosangaku.moo]

指導者が写真撮影や説明、別の子への対応に気を取られている間に、子どもが先に登ってしまうことがある。[kasen.or]

事前に「登らない」「飛び降りない」「一人で近づかない」を具体的に共有していない、あるいは守らせる仕組みがない場合、危険行動が起こりやすい。[mlit.go]

使い方

この整理は、事故分析やヒヤリハット検討でそのまま使えます。必要なら次に、「事故発生前」「事故発生時」「事故後」の3段階に分けて、チェックリスト形式に落とし込めます。